

令和6年度第2回運営推進会議報告書

法人名	大山町社会福祉協議会	事業所名	地域密着型通所介護ほほえみ
開催日時	令和6年10月23日(水) 14:00~15:00		
参加者	利用者(1名) 利用者家族(1名) 地域住民代表(2名) 大山町職員(1名) 事務局(3名)		

1. 活動状況報告

地域密着型通所介護と総合事業、元気アップ(R6.4月~R6.9月まで)の登録者数及び、延人数についての報告を行う。昨年度と同時期に比べると4月以降は体調不良により入院された方や逝去された方、家庭の事情により入所された方が多く、利用者数が減少傾向となった。新規利用は月に1件から2件の問い合わせがあり、利用に繋がったこともあった。

2. 活動状況に関する評価

【事故・ひやりはっと報告について】

添付報告書にて事故内容を報告及び今後の対応策について説明を行う。(車両事故、歩行中の転倒事故等)今後も事故を未然に防げるよう、運転時の危険認知や、ひやりはっと報告書を活用することで事故回避に繋がるよう職員全体で意識しながら努める。

【デイサービスの行事や地域ボランティア様との交流について】

前回同様4月からの行事内容について、写真を通じて紹介させていただく。地域ボランティア様には毎月又は2か月に1回お越しいただき、絵画教室や紙芝居、朗読、手遊びなど様々な内容で交流をしていただいた。保育所交流では園児さんとの触れ合いに笑顔が溢れていた。

その他では外出レクとして桜の花見や手作業としては季節の花の飾りや鯉のぼり作り、文化祭に向けた飾り作り等に取り組んでいただき、おやつ作りも行った。今後も引き続き利用者様が意欲を持ちながら楽しく通所していただけるサービスを目指す。

3. 事業所への要望、助言等(※会議で委員が発言した主な要望、助言等を記載)

①	以前、介護に携わる仕事を経験していたが、当時と比べると現在は研修なども多く、学ぶ機会も増えた。社協として色々と実践されていると思う。4月から新たに始めたにやりはっと報告書は活用できたか。
②	ほほえみを利用できることをとても感謝している。前回は話したが、職員体制が少ないように感じる。体調不良などで職員が少なくなった場合が心配になる。補充を考えているか。
③	ひやりはっと報告書の件数が少なく感じられる。事故防止に繋がり、必要なことだと思う。些細なことでも報告できるような仕組み作りをした方が良いのではないか。
④	コロナの状況も緩和し、保育所交流や外部団体との交流など、再開されているようだが、面会に制限があるか。またコロナに感染されたことはなかったか。感染対策のようなことは行っているか。
⑤	ほほえみを利用することで「休みたい。」と話されることは殆んどない。回数調整の為に休ませる時の理由を考えることが大変な時がある。長い間利用しているが、入浴や日常生活の相談等も出来てとても助かっている。今後も利用していきたい。

4. 要望、助言に対する考え方(※上記3に対する事業所の考え方を番号順に記載)

①	にやりはっと報告書については、利用者様とのふとした会話ややりとりの中で、にやりとした出来事や元気が出た言葉、おもわず笑顔になってしまったこと、ホッとするような心が温まるような瞬間を記録にすることを職員間で共有し、利用者様のやる気や良いところを見つける取り組みとして始めた。記録を読むことで前向きな気持ちになることや励みなることにも繋がった。
②	職員体制について、補充は難しい状態であるが、現状の中でサービスの質を落とさず、効率的に業務を進めていく方法を検討していく必要があると考えている。

③	ひやりはっと報告や事故についての案件があった場合、職員間で意見交換し、再発防止に向けての話し合いを行っているが、件数的にはかなり少ない状態であると思われる。今後、ひやりはっと報告の意味を再認識する説明を行い、週単位または月単位で記録にして提出が出来るよう実施していきたい。
④	現在規制は行っておらず、体温測定、手指消毒の対応で来所していただいている。感染症対策については蔓延しないよう、以前と同様に認識している。ご意見としてBCPの作成については、作成して終わりではなく、何か起こった時を想定し、状況に応じて変更が必要であれば上書きをしていかないときちんとしたものが出来ないとの話をお聞きした。改善すべき必要なことは、改善に向けた取り組みを進めていきたいと思う。
⑤	今後もほほえみを利用いただくことで、安心した日常生活が送れる支援が出来るよう努めていきたい。

5. その他 (※上記3に該当しないその他の主な事項を記載)

--